

1960年代のミニ開発住宅地におけるコミュニケーションに関する研究 —その2 S 公民館で行われる文化祭を通して見た、グループ活動とキーパーソンの位置づけ—

日大生産工(院) ○田口 慎子
日大生産工 曾根 陽子

1 はじめに

本研究は、「ミニ開発住宅地」の1つである埼玉県川口市S地区^{注1)}における開発の過程と現状及び近隣コミュニケーションの実態に関する研究^{文)}の一部である。

S地区では年間100件以上の行事が存在している^{注2)}。その中でも「夏祭り」に次ぐ規模のS地区の大イベントが毎年秋にS公民館で開催される「文化祭」である。本稿ではこの「文化祭」を通して見た、グループ活動とキーパーソンの位置づけについて報告する。

2 調査概要

(1) 「文化祭」について

「S公民館地区文化祭」はS公民館開館以来毎年秋に開催され、筆者らが調査を行った2006年で35回目となる。主催は文化祭実行委員会、後援はS町会およびS地区リクリエーション協会、協力が川口市交通安全協会S支部およびS公民館である。

(2) S公民館について

S公民館は昭和45年11月に運営を開始し昭和48年・54年の2度の増築を経て現在に至っている。主要な室構成は調理室・日本間・図書室を含む計6室で、RC2階建て、延べ床面積は423.24㎡である。

(3) 調査対象

S公民館を通常利用して活動を行っている37グループ。さらに、2006年11月4・5日に行われた「文化祭」の参加者とする。

(4) 調査方法

調査は2006年4月から2007年3月にかけて、筆者らが実際に活動に参加しヒアリングを行い気づいたことを記録した。

3 結果と考察

3.1 日時・会場

2日間とも開催時間は午前10時～午後4時。会場は図1に示すように、S公民館および公民館前の駐車スペース、S公民館横のSヘルパーステーションとその横にある小さな公園、またS公民館向かいのS小学校校庭の計5箇所である。

3.2 来場者数

公民館調べの参加者は1000人以上。内訳は実行委員とスタッフが80人、お手伝いをした人が2日間で120人。

パンフレットが1日目350部・2日目450部の計800部はけたことにより推定来場者800人以上。また、自転車の台数が1日目120台、2日目200台近くに及んだとのこと(川口市交通安全協会S支部調べ)から来場者の約3割は自転車での来場者であることがわかる。

2日間とも多数の来場者があり、年齢層も高齢者だけではなく、幼児や小中学生、20代の若者も多く見受けられた。参加者の多くがS地区居住者であり、その内S公民館を利用したグループ活動のメンバーの家族や友人が多くを占めてはいるものの、「文化祭をやっているとことだから、ちょっと覗きに来た」という小中学生も見受けられた。

3.3 参加グループ

参加グループは表に示すように通常S公民館を利用し実際に活動している37グループの内24グループと、町会などの公的なグループ3グループ、また、個人参加者を含む非公民館利用グループ8グループの計35グループである。

この非公民館利用グループ8グループの内、2グループが個人参加者で、芸能発表の部に参加している3グループは、通常はS地区内にある青少年センターで活動しているグループ、残りの3グループは通常はSヘルパーステーションで活動しているグループである。

この文化祭では、通常の公民館利用の有無にかかわらず、これら35グループ全てが同等に扱われていた。

3.4 参加者

図2に示すように、文化祭の構成メンバーである文化祭実行委員会やS町会、S地区リクリエーション協会、また川口市交通安全協会S支部のメンバーの約8割は何らかの形でS公民館を利用したグループ活動のメンバーである。このS公民館を利用したグループ活動のメンバーの多くが、一つのグループだけでなくいくつかのグループに所属していることは既発表^{文)}の通りである。その為、文化祭参加グループのメンバーの多くも、1つのグループだけではなく色々なグループに所属している。また、ヒアリングにより文化祭参加グループのメンバーは全員、この文化祭以前より知人関係にあることがわかり、文化祭期間中もよく交流がなされている姿がみられた。

Research on the communication in the Mini-development residential section of the 1960s
— Part.2 Positioning of the key person and the group activity

through the cultural festival performed in the S Kominkan —

Makiko TAGUCHI and Yoke SONE

これらのことにより、S地区には種々のグループ活動が存在し、それらのグループが重なり合っていることがわかった。

3.5 キーパーソン

本稿では「文化祭」を調査対象としているが、文化祭だけではなくS地区で行われるその他の行事を通してグループ活動をみていくと、S地区にある大小さまざまなグループのグループとグループの結び目となる人達の存在が明らかになった。この結び目となる人をキーパーソンと呼ぶことにする。

図3に示すように、S地区にはキーパーソンが1人や2人ではなく30人以上存在している。このキーパーソンは、3つのタイプにわけることができる。1つ目のタイプは、いくつものグループに所属し、グループとグループの結び目になっているキーパーソンである。例として図3中のSさんは、交通安全協会S支部のメンバーであり、ソフトボールのメンバーでもある。また、S公民館を利用した「カラオケ」や「ゲートボール」のメンバーでもある。このSさんがいることで、Sさんの以外の交通安全協会S支部のメンバーとソフトボールのメンバーが知り合いになったり、ソフトボールのメンバーでカラオケ好きの人がSさんの紹介でカラオケのクラブにも参加するようになるなど、SさんはSさんの所属するグループのメンバーをグループを超えて結びつけるのに一役かっている。2つ目のタイプは、いくつもの行事に参加し、行事と行事の結び目になっているキーパーソンである。例として、図3中のIさんは、交通安全協会S支部にしか所属はしていないものの、文化祭や夏祭り、餅つき大会などのS地区の行事には毎回参加し、S地区の交通安全を守っている。その為、S地区住民の多くがこのIさんのことを知っている。3つ目のタイプは、1つ目のタイプと2つ目のタイプの合わさったタイプである。このタイプは会長や校長といった“長”の名のつく人に代表されるように、いくつものグループのメンバーと関係しながらいろいろな行事にも参加しているキーパーソンである。S地区のキーパーソンの多くがこのタイプである。

キーパーソンの約6割は高齢者ではあるが、中には50代以下の人も存在している。彼らのような比較的若い世代のキーパーソンの中には、自分達がS地区の次の時代を担っていくという自覚のある人や、S小学校のPTA役員や少年野球の保護者のように子どもの成長に合わせて更新される人も存在している。

4 まとめ

S公民館で開催される「文化祭」はS公民館を利用したグループ活動の発表の場であるのと同時にS地区の一大イベントであり、グループ活動のメンバーはもちろんのこと、それ以外にS地区住民も多く参加し、その家族や友人の交流の場となっている。

また、「文化祭」という行事を通して、S地区には大小さまざまなグループ活動が存在し、それらのグループが重なり合っていることがわかる。そして、この様に大小さまざまなグループが「文化祭」という行事

を協力して行うことで、S地区内のキーパーソンの存在が可視化されている。

表 文化祭参加グループ

2日間参加グループ		1日目のみ参加グループ	2日目のみ参加グループ
【展示の部】 S書道クラブ リボンフラワー カトリア(生け花) S水墨画クラブ Sフォトサークル 木彫りクラブ ふれあい21 レインボー(子育てネット) Sジャイアンツ(少年野球) 鎌倉彫クラブ 絵手紙サークルこすもす ゆりの会(アメリカンフラワー) SOBソフトボールクラブ 個人出展(写真・絵画)	【模擬店の部】 ふれあい21 Sジャイアンツ ファザーズ Sソフトクラブ S町会自主防災隊 ふれあい喫茶(ジャージカフェ) ミニテニス ふじの会 【その他の部】 S園芸同好会 いざいざサロン ふじの会	【芸能発表の部】 大正琴真月会 民謡愛好会 鈴音会よさこい 民謡同好会 花富士会 鈴音会 華の会	【芸能発表の部】 カラオケ同好会 レイナニフラスカール カナリア(合唱) リリウクレレクラブ マジック
			【スポーツの部】 SOBソフトボールクラブ
			【模擬店の部】 レクリエーション協会

※網掛け部は通常S公民館を利用しているグループ。斜体は非公民館利用グループ。
下線は非グループ活動グループ

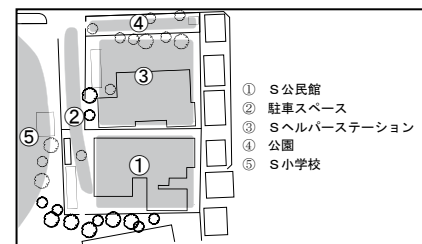


図1 会場配置図

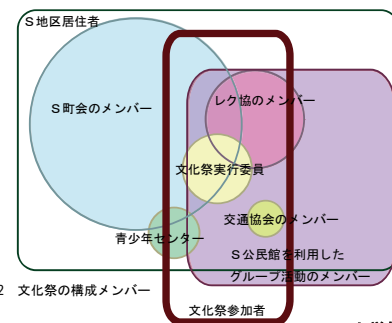


図2 文化祭の構成メンバー

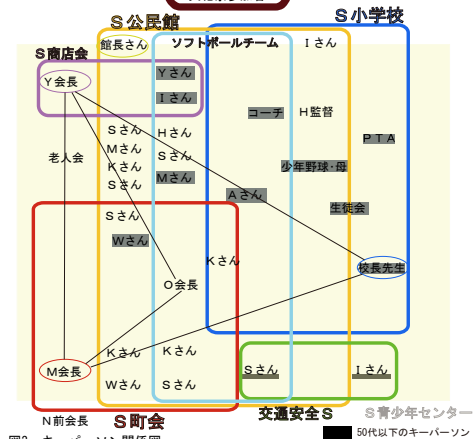


図3 キーパーソン関係図

【参考文献】

- (1) 曾根陽子ら：「1940年代初頭の川口市におけるミニ開発住宅地に関する研究 その1地区と人口の変化/その2近隣商店の実情/その3 飲み屋の実態」、日本建築学会大会学術講演概要集、No. 5764～5766、2005(近畿)
- (2) 曾根陽子ら：「1960年代のミニ開発住宅地に関する研究 その1近年における地区および住宅の状況/その2地区内の近隣コミュニティの概況について/その3 「飲み屋」におけるコミュニケーションの実態」、日本建築学会大会学術講演概要集、No. 7451～7453、2006(関東)
- (3) 曾根陽子ら：「1960年代のミニ開発住宅地におけるコミュニケーションの実態に関する研究 その1 公民館を利用したグループ活動について/その2 公民館を利用したグループ活動のメンバーについて/その3 公民館を利用した「文化祭」について」、日本建築学会大会学術講演概要集、No. 5614～5616、2007(九州)

【注釈】

- 注1 本稿では紀要発表のS地区を含むS一丁目・二丁目全域を対象とする。対象区域の人口5894人、世帯数2680世帯(2007年3月1日現在)。
注2 夏祭り・文化祭の他に、町会ソフトボール大会や町会ミニテニス大会、餅つき大会やS防災訓練等がある。